

第三七五號

重慶發本官宛電報

第三號

大臣、支、南京へ轉電アリタシ

本官二十日就任ノ旨二十一日書翰ヲ當地關係機關へ送達致シタルニ對シ何等回答ナク奇異ノ感ナキニアラサリシモ二十三日夫々訪問申入レタル處李警備司令ハ病氣馮縣長ハ他地ニ出張ノ由ヲ以テ斷り來り商會溫主席ハ待チ受クル旨第一師長唐式遵ハ時刻變更ヲ希望シ回答アリ仍テ二十四日午前十一時ヨリ先ツ市政府へ次二二一軍司令部ニ赴キタルニ

何レモ未登廳トテ門前拂ニ遭ヒ當日ハ溫、唐兩人丈ケ會見シ唐ハ舊知タルニ依リ特ニ歡待セリ

市長潘文華ハ軍務ニ依リ目下成都ニアル由ナレハ代理者タル石秘書長ヲ二十五日往訪シ唐、石兩人ハ答訪シ來レリ昨日郭參謀長(劉湘代理)李警備司令へ改メテ五日ニ訪問申入レタルニ對シ兩人共待チ受クル旨回答アリタルカ今朝ノ新聞ニ依レハ本官ト應接方ニ付善後督辦處ヨリ二十二日外交部へ問合せタルニ對シ常ノ通接待スヘキ旨二十八日同電アリタル趣ニテ其旨當地各軍政機關へ轉達セル趣ナリ

十 雜 件

1 中国軍の上海停戦協定区域内通過問題

665 昭和8年2月(8)日 在上海石射總領事より
内田外務大臣宛(電報)

中国軍の上海停戦協定区域内通過事件に對する我が方抗議措置について

付記一 昭和七年六月十三日發在中國重光(葵)公使より齋藤(寒)外務大臣宛電報第九五〇号

協定区域内中国軍通過問題に關し共同委員會開催について

二 昭和七年六月十三日發在中國重光公使より齋藤外務大臣宛電報第九五一号

右問題に對する共同委員會中立委員決定

上海 發
本省 2月8日後着

十 雜 件
第三七號

八日陸戰隊側ヨリ七日支那軍約五、六千、列車ニテ「マールカム、ロード、ジャンクシヨン」ヲ通過シ南京ヨリ杭州方面ニ向ヘル旨(同方面ニ於ケル劉珍年軍ノ幹部兵變ヲ起セルヲ以テ蚌埠駐屯ノ第四師急遽南下セルモノナルヤニ傳ヘラル)報告アリタルヲ以テ共同委員會委員陸戰隊專任參謀角田中佐トモ相談ノ上明九日本官ヨリ支那側委員俞鴻鈞ニ對シ客年六月支那軍ノ協定區域通過ノ際ニ於ケル中立國委員ノ決定(客年公使發閣下宛電報第九五〇號)ヲ引用(シ)本件支那軍通過ハ停戦協定違反ナル點ヲ指摘シ抗議スルト共ニ今後協定區域内支那軍通過ノ際ハ豫メ當方ニ通告ノ上其ノ承認ヲ求ムヘキ旨要求スル意向ナリ尙本件ハ共同委員會ニモ通告シ同委員會ヲ通シ今後無通告ニテ軍隊ヲ通過セシムル等ノ事無キ様適當措置スル筈目下議會開會中ニテ又本件ハ既ニ新聞通信員ニ依リ内地ニ電報セラレタル次第モアリ右不取敢

北平、南京、滿へ轉電シ支へ轉報セリ

(付記一)

上海 昭和7年6月13日後発
本省 昭和7年6月13日後着

第九五〇號(大至急)

一、十二日午後王長春原田武官ヲ來訪シ安徽省共匪討伐ノ爲目下杭州ニ在ル蔣鼎文ノ第九師全部ヲ十三日より三日ニ亘リ輸送スル筈ノ處右ハ杭州ヨリ鐵道ニテ北停車場ヲ經テ滬寧鐵路ニ依リ南京ニ至ル豫定ナルカ上海附近ニ駐留ノ意毫モ無キニ付日本側ニテ誤解ナキ様豫メ通知スル旨申越セリ依テ同夜岡崎鯨島大佐及原田武官協議シタルカ我方トシテハ協定ノ解釋上斯ル申出ニハ應スル能ハストノ態度ヲ強ク執ルコト必要ナルモ非公式ノ話合ニテハ支那側カ主權ヲ楯ニ勝手ノ行動ニ出タル場合日本側ノミニテ之ヲ制止スル責任ヲ負ハサルヘカラサルニ付寧ロ共同委員會ノ開催ヲ求メ其席上ニテ我方ノ立場ヲ明カニスルコト可然ト認メ同夜岡崎ヨリ共同委員會議長ニ對シ本件ヲ報告スルト共二十三日朝共同委員會ノ開催方ヲ求メタリ

二、右ノ結果十三日午前十時委員會開催セラレ(我方武官委

州河以北ニ付テハ敵對ノ意思ノ有無ニ拘ラス第一附屬書ニ規定スル地域ニ如何ナル軍隊ヲモ入ルヘカラス又實際上モ杭州ヨリハ南京ニ直通スル自動車道路アリ且共匪討伐ノ爲ニハ第九師ノミニ限ラサレハ他ノ軍隊ヲ南京又ハ其他ヨリ安徽ニ送ルコト可然強ヒテ協定ノ重大ナル解釋問題ニ觸ルカ如キ行動ヲナスコトナカルヘシトノ趣旨ヲ述ヘタルカ双方ノ意見遂ニ一致セサル爲中立國委員ノ解釋ヲ協議スル爲日支委員ノミ別室ニ退キタリ

三、右ノ結果中立國委員ノ一致セル決定ハ別電第九五一號ノ通りニテ議長ハ北停車場其他支那軍隊ノ移動範圍カ第一附屬書ノ地域内ニ入ル場合ハ共同委員會ハ之ヲ容認シ難キ趣旨ナリト述ヘタルニ付我方ハ右中立委員ノ決定ニ満足スル旨述ヘ支那側本件決定ヲ直ニ政府ニ報告シ其ノ指示ヲ仰クヘシト述ヘタリ

件

別電ト共ニ英、米、北平、奉天、南京ニ轉電シ上海ニ轉報セリ

別電ト共ニ英ヨリ聯盟、佛ニ轉電アリタシ

十 雜

(付記二)

員トシテ鯨島大佐出席)支那僉委員ハ第二條ハ支那軍隊ノ移動ニ關スル主權ノ侵害トナル事項ヲ規定セルモノニ非ス右ハ敵對行爲シウセイノ爲戰鬪ニ參加シ蘇州河以北ニ在リタル軍隊ニ對シ其原駐地ニ止ルヘキコトヲ命セルニ過キス今同ノ軍隊ノ移動ハ人類共同ノ敵タル共匪ヲ討伐シ人民ノ焦眉ノ苦難ヲ救フ爲ニテ從テ何等日本側ニ敵對ノ意志ナキコト勿論ナルカ此點ハ中立委員ニ於テ適當ノ方法ニテ確カメラルルモ宜シク特ニ右軍隊ハ鐵道ニ依リ乘リ換ヘモセス北停車場ヲ通過シテ南京ニ赴クニ過キサルニ付

日本側ニテカカル軍隊ノ移動迄ヲ制限セントスルハ常識ヨリ云フモ當ヲ得スト強ク主張セリ(尙支那側ハ同地軍隊ヲ送ル外ナキ旨又杭州ヨリハ道路破損ノ爲他ニ適當ノ輸送方法ナキコト等ヲ述ヘタリ)右ニ對シ岡崎ハ協定第二條ハ蘇州河以北ニ於テ一定地域ヲ指定シ右地域内ニテハ如何ナル支那軍隊モ移動スヘカラサルコトヲ規定スルト共ニ第一條ニ於テ其他ノ上海周圍ノ地域ニ於テモ日支双方ハ敵對行動ヲナスヘカラサルコトヲ規定シ兩々相俟ツテ上海及附近ノ平靜ヲ維持セントスル趣旨ナリ從テ蘇

No. 951. (Very Urgent)

上海 昭和7年6月13日後発
本省 昭和7年6月13日後着

Unanimous decision of the neutral members of the Joint Commission on the matter brought before them, is that Article 2nd of the May fifth Agreement provides an area within whatever there shall be no movement of Chinese troops, that area being defined in annex of the Agreement referred to. Outside that area there shall be no hostile movement (by either the Chinese or Japanese side) in the vicinity of Shanghai, in the event of any doubt arising, the situation in that respect will be ascertained by the neutral members of the Commission.

666 在上海石射總領事より
昭和8年2月13日 内田外務大臣宛(電報)

中国軍の上海停戦協定区域内通過事件に対す
る措置振りにつき請訓

上海 發
本省 2月13日後着

◎ 第四七號
往電第三七號ニ關シ

當地陸戰隊側委員トモ熟議ノ上本件ハ過去ノ行爲ヲ責ムルヨリモ將來支那軍カ協定區域ヲ通過スル場合必ス事前ニ協同委員會又ハ我方ニ通告了解セシムル事且此ノ點ニ付出來得レハ支那委員ヨリ一札ヲ取付クル事ヲ主眼トシ支那側ニ交渉シタル處俞支那側委員ハ初メ停戰協定ハ當時戰鬪ニ參加セル支那軍ノ協定區域内移動ヲ制限セルモノニテ總テノ支那軍隊ノ移動ヲ制限スルカ如キ支那ノ主權ヲ侵害スルモノニアラスト客年六月十三日中立委員ノ決定ニ對スル支那政府ノ見解ヲ固執シ支那側トシテハ單ニ as a matter of courtesy トシテナラハ事前ニ通告スル用意アリト主張シタルモ我方ニ於テ中立委員ノ決定ヲ援用シ「カーテシイ」ニテハ満足スルヲ得ス必ス事前ニ通告シ了解ヲ求ムヘキモノナリトテ反駁シ九日以來數次意見交換ノ結果我方ハ我方ヨリノ書面ニ於テ特ニ抗議ナル文字ヲ避ケ今後協同委員會又ハ我方ノ事前ノ了解無クシテ支那軍ハ協定區域内ヲ通過

セストノ保障ヲ與ヘラレン事ヲ申入ルヘキニ付之ニ對シ支那側ヨリ「カーテシイ」ナル文字ハ止メテ必ス事前ニ通告スヘシトノ趣旨ヲ回答スル様要求シタルモ
俞ハ國民ノ手前モアリ書面ニ依ル約束ハ出來ス日支委員會ノ Gentlemen's agreement トシテナラハ事前ニ通告スヘシトノ口頭約束ナラハ致スヘシ(此ノ點ハ南京政府ニ請訓ノ結果ト思ハル)トテ仲々我方ノ要求ニ應セス
尤モ先方ニテハ口約束丈ケニテモ之ヲ守ル意嚮アル事ハ看取スル事ヲ得ルモ協定第二條ニ關スル我方從來ノ主張モアリ此ノ際我方ヨリ支那側(ニ)正式抗議文ヲ發シ其ノ回答ヲ得タル上共同委員會ヲ開催シ其ノ決定ニ俟ツ事カ本筋ト思考セラルル所右措置振ニ對スル何分ノ儀御同電ヲ請フ
尙共同委員會トシテ客年六月中立委員決定ト同様ノ決定ニ達スル場合ト雖支那側ハ恐ラク前同同様ノ態度ヲ採ル事ト推測セラルル次第ナルカ我方トシテハ同委員會ニ於テ若シ支那側カ委員會ノ決定ニ服セサル時ハ必要ト認ムル場合ニハ實力ヲ以テスルモ支那軍ノ協定區劃通過ヲ阻止スル用意アル位ノ事(當地海軍側ニテハ實力阻止ノ用意アリト稱シ居レリ)ヲ言ヒテ物別レトナルモノト思ハル尙又支那側ニ

テハ協定附屬書第三ノ規定ヲ引用シ委員會ノ權限ハ Procedure ニ關スルモノニシテ本問題ノ如キニ對シテハ決定權ナシト主張スルナラント思ハル
滿、南京、北平ヘ轉電シ支ヘ轉報セリ

667 昭和8年2月15日 在上海石射總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国軍の上海停戰協定区域内通過事件に對する
共同委員會英米側委員の意向について

上海 發
本省 2月15日後着

◎ 第五一號(極秘)
往電第四七號ニ關シ

本件カ共同委員會ニ持出サレタル場合ニ於ケル英米側委員ノ意嚮ヲ探ル爲本官十四日米國總領事「カンニンガム」ヲ十五日英國總領事「ブレナン」ヲ往訪意見ヲ交換セルカ「カ」ハ今日ニ於テハ協定ニ所謂 normal conditions カ回復セラレタリト認メラルルヲ以テ共同委員會ニ於テハ停戰協定カ依然支那側ヲ拘束スルヤ否ヤノ點必ス問題トナルヘシ自分

トシテハ在支公使ニ請訓セサルヘカラサル次第ナルカ請訓ノ結果米國側トシテ昨年六月ノ如キ日本側ニ有利ナル決定ニ達スルヤ否ヤ疑問ナリト
「ブレナン」モ自分一己ノ意見ナルカト前提シタル上元來同協定ハ暫定的ノモノニテ平靜狀態回復後何時迄モ支那側ヲ拘束スヘキヤ否ヤ成ル程協定ニハ later arrangement ノ成立迄トアルモ斯カル取極メハ何時出來ル見込アリヤ若シ何時迄モ出來ストスレハ永久的ニ支那ヲ拘束スル事トナリ少シ無理ト思ハル昨年六月中立委員ノ決定ハ協定成立後幾許モ無ク停戰當時ノ狀態カ繼續シ居リタルカ爲出來タルモノニテ今同モ同様ノ決定ヲ見ル否ヤ大ナル疑問ナリ兎ニ角日本カ本件共同委員會ニ持出サルル事ハ中立委員ヲ誠ニ困難ナル立場ニ置クモノナリト繰返シ述ヘ尙共同委員會ハ或ル特定ノ支那側ノ行動カ協定違反ナルヤ否ヤヲ確カムル爲ノモノニテ一般的ニ決定ヲ爲ス權ナキモノト考ヘラルト附言シ自分トシテハ公使ノ訓令ヲ受クヘシト言ヘリ
英米側ノ態度右ノ如クナル以上本件ヲ共同委員會ニ持出ス時ハ我方ノ希望スル如キ決定ヲ得ラレサル而已ナラス結局停戰協定ノ效力問題ヲモ誘起スル虞充分アルヲ以テ此ノ點

慎重考慮ノ要アルヘク又共同委員ノ席上ニ支那委員ヲシテ口頭ニテ今後協定区域内支那軍通過ノ場合必ス事前ニ通告スヘシトノ言明ヲ爲サシムル事モ一案ナルヘシト考ヘ居タルカ是トテ支那側ニテ應諾ノ見込先ツ無カルヘキヲ以テ(英國總領事モ無理ナラント言ヒタリ)此ノ際ハ日支委員間ノ口頭約束ニテ我慢スル事安全ナラント思ハル支ヘ轉報セリ

北平、南京、滿ヘ轉電セリ

668 昭和8年2月20日 在上海石射總領事より
内田外務大臣宛(電報)

中国軍の上海停戦協定区域内通過事件は事前
通告遵守の口約取りつけをもつて妥結したき
旨意見具申

上海 発
本省 2月20日後着

第五六號
往電第五一號ニ關シ

未タ御同訓ニ接セサルカ我方ノ措置余リ遅レテハ間ノ拔ケ

タルモノトナル處アル處支那側ニ於テ「カーテシー」トシテ通知ストノ從來ノ主張ヲ枉ケタルノミナラス聯盟問題熱河問題等ニ依リ日支間ノ空氣惡化ノ傾向ニモ拘ハラス當地ニ關スル限り治安維持ノ誠意ヲ示シ居ルヲ以テ我等トシテモ差當リ支那側ノ言分ニ乘リ口約ニテモ可ナリトノ雅量ヲ示シ支那側ヲシテ治安維持ニ努力セシムルト共ニ若シ約束ヲ破リ(僉委員ニ於テ之カ遵守ノ意向アルコトハ前電ノ通)タル場合ハ口約ヲ楯ニ其責任ヲ問質シ又口約ニテハ到底満足出來ストテ一札ヲ取付クルコトヲ主張シ得ル次第ナルヲ以テ此ノ際本件ハ日支委員間ノ口約ニテ一應妥結方機宜ニ適スト存セラル折返シ何分ノ御回電ヲ請フ

支ヘ轉報シ、北平、南京ヘ轉電セリ

669 昭和8年2月21日 内田外務大臣より
在上海石射總領事宛(電報)

中国軍の上海停戦協定区域内通過事件に対す
る措置振りにつき回訓

第二四號
本省 2月21日發

貴電第四七號及第五一號ニ關シ

一、我方ニテハ飽迄停戦協定勵行ノ方針ヲ堅持スルモノニシテ明カニ不法ナル支那側今次ノ行動ハ到底之ヲ不問ニ附シ得サル次第ナルカ「ゼントルメンズ、アグリーメント」等ノ糊塗的方法ニテ問題ニ落着セシムルコトハ將來支那側ヲ増長セシムヘキノミナラス動モスレハ弛緩ノ傾アル共同委員會ノ責任心ヲ鈍ラス虞アルニ付本件ハ支那側ノ違反ヲ責ムルト共ニ共同委員會ノ活動ヲ促スコトヲ趣旨トシテ措置スルコト肝要ト存ス

二、就テハ支那側ニ於テ事前ニ了解ヲ求ムヘキ旨ヲ保障スル書面ヲ提出スルコトヲ飽迄肯ンセサルニ於テハ貴見ノ通り正式ニ抗議文ヲ提出スルト共ニ支那側カ斯種不法行爲ヲ繰返スニ於テハ我方ハ適當ト信スルノ機會ニ力ヲ以テ之ヲ阻止セサルヲ得サルヘキコトヲ支那側及第三國側ニ對シ豫メ強く印象セシムル様御措置相成度

三、而シテ右抗議ニ對スル支那側ノ回答振カ我方ノ意ニ滿タサルトキハ共同委員會ヲ開催シテ客年六月ト同様ノ決定ヲナサシメ右ニ對シ支那側カ前同同様ノ態度ヲ執ル場合ニハ我方ハ行動ノ自由ヲ留保スルモノナル旨ヲ明確ニシ

置クコト可然トノ考ナルモ貴電第五一號第三國側ノ態度モアルニ付差當リ前記ニノ措置ニ對スル支那側及第三國側ノ反響ヲ見定メタル上將來ノ措置振ヲ決定スルコトト致度

陸海軍ト打合濟
滿及北平ニ轉電セリ
支及南京ニ轉報アリタシ

670 昭和8年2月22日 在上海石射總領事より
内田外務大臣宛(電報)

中国軍の上海停戦協定区域内通過事件に対す
る措置振り訓令中の正式抗議文發出につき再
考方意見具申

上海 發
本省 2月22日後着

第六〇號
貴電第二四號ニ關シ

御訓電ノ趣旨ハ當方トシテモ至極同感ニシテ從來モ右方針ニ基キ措辨シ來レル次第ナル處貴電ノ次第モアリ再應支那

側ニ對シ我方ニ於ケル實力阻止ノ意嚮ヲ強く、印象セシメ軍隊通過ニ付事前ニ了解ヲ求ムヘキ旨ノ書面取付方交渉致スヘキモ支那側ニ於テ應諾セサル事殆ト疑ナク此ノ場合御來示ノ如ク我方ヨリ正式抗議ヲ提出セハ支那側ヨリ反駁文ヲ寄越シ其ノ結果共同委員會ニ懸クル段取トナル譯ナルカ其ノ際ニ至リ英米委員等ノ態度(我方實力阻止ノ意嚮ヲ示スコトニ依リ彼等ノ態度ヲ變更セシムルヲ得ルヤ否ヤ疑問ニテ或ハ却テ彼等ハ平靜回復(セリ)ト認ムル今日ノ事態ニ於テ支那軍ノ單ナル通過ハ違反ナリヤ否ヤ疑問ナリトテ事端誘發ノ惧アル我方實力行使ヲ「デイスカレヂ」スル態度ニ出ツルナキヲ保シ難シ)我ニ不利ナリトテ委員會ニ持出ササルコトハ甚タ不體裁ニシテ其ノコトハ自然支那側ニモ知レルニ至ルヘシ若シ亦之ヲ押切り委員會ニ懸クル場合中立委員ニシテ我方ノ希望セサル決定ヲ爲スカ

⁽²⁾然ラサル迄モ日支双方ノ感情ヲ害セサランカ爲曖昧ナル態度ヲ執リ有耶無耶ニ葬リ去ラルトセンカ停戰協定ノ效力ニ惡影響アルハ勿論支那側力之ヲ幸ニ無斷通過ヲ行ヒタル場合之ニ對シ我方トシテ實力阻止ヲ言明セル手前實力行使ノ已ムヲ得サルニ至リ支那側トノ間ニ憂慮スヘキ事態ノ發生

◎^(電注)
第二八號

貴電第六〇号ニ関シ

右貴電御申越ノ次第二付テハ陸海軍ト共ニ特ニ慎重ナル考慮ヲ加ヘタルカ大局上貴地方其ノ他ニ於ケル事端ノ發生ヲ避クルノ要アルコトハ當方並ニ軍部共充分留意シ居ル次第ナルモ目前余リ寛大ナル態度ニ出ツルニ於テハ支那側増長ノ結果却テ重大ナル事端發生ノ禍因ヲ後日ニ残ス虞アリト存ス

仍テ熟慮ノ結果別電第^(電注)號ノ通り措置振合打合セタルカ最近ノ聯盟關係モアリ又熱河問題モ切迫シ居ル現下ノ狀況ニ顧ミ差當リ正式抗議ノ提出ヲ差控ヘツツ今少シク支那側トノ押問答ヲ重ヌル一方第三國側トノ話合ヲ續行シ其ノ成行ヲ見ルコトト致度

就テハ往電第二四號及前記別電參酌ノ上可然御措置相成度

編注一 本文書は海軍省用箋にペン書の草案写であり、發電

日および發電番号は編者が補なった。

編注二 別電番号は未記入。

スヘキコトモ豫想セサルヘカラス斯ノ如キハ大局上當方面ニ於テ嚴ニ事端ノ發生ヲ避ケントスル帝國政府ノ御方針即チ客年九月御決定ノ時局處理方針及本年二月一日ノ閣議決定(聯盟代表宛電報第四九號)ノ御趣旨ニ照シ如何カト存セラル冒頭御訓令ハ本省側ニ於テモ勿論右各場合ヲ御考慮ノ上トハ存スルモ本官ニ於テ御訓令執行上萬遺漏無キヲ期シ度ヲ以テ右ニ對スル本省側御意嚮至急御同電相仰度シ夫迄ハ支那側ニ對シ抗議書ノ發出ヲ差控フルコトトセリ

支ニ轉報シ南京、北平ニ轉電セリ

671 昭和8年2月27日 内田外務大臣より
在上海石射總領事宛(電報)

中国軍の上海停戰協定区域内通過事件に關し
しばらく正式抗議文發出を留保し事前通告遵
守の書面取りつけ方訓令

別電 二月二十七日發内田外務大臣より在上海石射
總領事宛第二九号

陸海軍と協議決定の右事件への措置方針

本省 2月27日發

(別電)

第二九號

本省 2月27日發

一、支那側カ明ニ不法ノ行爲ニ出テタル此ノ際其ノ云ヒナリニ口約ニ依リコトヲ濟スニ於テハ先方ハ當分ノ間之ヲ遵守スルヤモ知レサルモ時日ノ經過ニ從ヒ益々停戰協定無視ノ鋒鋒^(宛方)ヲ現シ來ルヘキハ客年六月當時ノ經緯其他各般ノ問題ニ對スル支那側從來ノ態度ニ顧ミ豫測ニ難カラスニ、次ニ英米等第三國側ノ態度ハ我方ノ甚タ諒解ニ苦ム所ナリ我方ニ於テハ圓卓會議ニ於テ上海地方平靜確立ノ「アレシメント」成立シ初メテ平常狀態ノ回復ヲ見ルモノトノ見解ヲ執ル次第ナルカ此ノ點ニ關スル見解如何ハ暫ラク措クトスルモ停戰協定文面ニ明カニ「レイター、アレシメント」ノ成立迄トアルヲ以テ右成立迄ハ停戰協定カ唯一ノ準據タルヘキコト一點疑ノ餘地ナシ而シテ該「アレシメント」ヲナスヘキ圓卓會議ハ我方ニ於テ其ノ開始方ヲ累次督促シタルニモ拘ラス支那及第三國側ニ於テ之ニ應セスシテ今日ニ及ヒ來レルモノナリ將又英國總領事ハ客年六月ト現在トハ事情ヲ異ニスルヤニ述ヘ居

ルモ客年六月ニハ我カ陸軍ハ全部歸還ヲ了シ居リ當時駐屯セシ陸戦隊ハ殆ト其ノ儘現存シ居ルモノナルヲ以テ其ノ状況ハ前後同様ト云ハサルヘカラス

三、仍テ此ノ上共支那側ト交渉ノ上(吳鐵城カ上海地方ノ平靜維持ニ腐心シ居ルニ乘シ同人ヲ通シテ支那側ノ説得ニ努ムルコトハ有效ナルヘキヤニ認メラル)先方ニ於テ飽迄誠意ヲ示シ來ラサルニ於テハ正式ノ抗議ヲ提出スル一方第三國側ニ對シテハ前記二ノ趣旨參酌ノ上改メテ切實ナル考慮ヲ求ムルコト可然(我方トシテハ最近上海等ニ於ケル排日風潮激化ノ虞アルニ顧ミ各地居留民ノ動搖防止方ニ腐心シ居ル次第ニシテ本件ノ如キカ不問ニ付セララルニ於テハ上海居留民ニ對シ面白カラサル影響ヲ與フルノ虞アルコト等ヲ告グルコトモ一策ナルヘシ)

四、尤モ此ノ際我方ニ於テ實力ヲ行使スルノ止ムヲ得サル破目ニ立至ルカ如キコトヲ避クルノ要アルコトハ外務並ニ陸海軍共同感ニシテ從テ前記抗議文ノ如キハ我方ニ於テ右様ノ破目ニ陥ラサラムカ爲メ嚴肅ナルモ過激ニ亘ラサル様留意スルヲ要スヘシ

五、而シテ愈々支那側カ我方ノ抗議ヲ反駁シ來レル一方共同

◎ 第八二號

貴電第二八號ニ關シ

一、御訓令ノ趣旨ニ基キ本官ヨリ愈支那側委員ノ再考ヲ促シタル處俞ハ折角御申出ノ次第モアリ篤ト再考スヘシト述ヘタルカ六日本官ヲ來訪各方面トモ談合ノ結果書面ニ依ル約束ハ遺憾乍ラ承諾出來サル旨同答アリタルヲ以テ九日本官ヨリ愈宛停戰協定ノ規定並ニ客年六月十三日ノ中立委員ノ決定ニ鑑ミ本件軍隊通過ニ對シ嚴重抗議スルト共ニ今後支那軍ノ協定區域内ヲ通過セサランコトヲ要求スル旨ノ抗議文ヲ發送セリ

ニ、英國總領事「ブレナン」八日來訪本件ニ關シ英國公使ヨリ同訓ニ接セリトテ其ノ訓令文ヲ讀聽カセタルカ之ニハ「ブ」ヨリ日本總領事ニ對シ英國公使ノ意嚮トシテ「本件ヲ飽迄共同委員會ニ「プレス」セラルル時ハ中立國側トシテハ共同委員會ノ地位ヲ考ヘ直ササル可カラサルニ至ル可シ支那側ニ於テ公約ヲ與フル用意アル旨言明シ居ル次第モアリ日本側トシテモ此際本問題ヲ不必要ニ強要セラルルコト無ク右ニテ満足セラレンコト得策ナリト思考セラル共同委員會ニ掛クレハ事態ヲ紛糾セシムヘキヲ

委員會カ客年六月ト同様ノ決定ヲナス見込付カサル場合ニハ委員會ニ附議スルコトナク前記支那側反駁ニ對シ(イ)客年六月十三日中立委員ノ決定(協定第二條ハ支那軍ノ移動アルヘカラサル地域ヲ定ム右地域ハ第一附屬書所定ノ通ナリ)(ロ)同月二十二日共同委員會議長ノ對支通告(右決定ニ拘ラス支那側カ擅ニ軍隊ヲ移動セントセハ右ハ支那ノ責任ニ於テナサルヘキモノナリ)等ヲ援用シタル上支那側ノ協定違反ニ依リ生スヘキ結果ハ凡テ其ノ責任ニ歸スヘク我方ハ協定履行ノ爲メ必要ト認ムル措置ヲ執ルノ自由ヲ留保スト云フカ如キ趣旨ノ通告ヲ發スルト共ニ充分自重ノ態度ヲ以テ事態ノ成行ヲ見ルコト可然

672

昭和8年3月(9)日 在上海石射總領事より
内田外務大臣宛(電報)

中国軍の上海停戰協定区域内通過事件に関する
我が方正式抗議文の発出および英国側の共
同委員会開催回避の意向について

上海 発
本省 3月9日後着

惧ル」トノ趣旨ヲ傳達スヘク又日本公使ニ對シテモ右趣旨ヲ本公使ノ最モ友誼的ナル意見トシテ且本件ヲ此邊ニテ「レスト」セラレンコトヲ望ム旨傳ヘラレ度キ旨記載シアリ

之ニ對シ本官ヨリ貴電第二九號(ニ)依リ客年六月ハ現在ト事情ヲ異ニセサルコト「レーターアレンジメント」ノ成立迄ハ停戰協定カ唯一ノ準據タルヘキコトヲ説明セルモ「ブ」ハ支那軍カ協定區域内ニ留リサヘシナケレハ第二條ノ目的ハ達セラルルモノニシテ事態平靜ナル今日日本ニ敵意ヲ有セサル支那軍隊ノ單ナル通過ヲ禁スルコトハ協定第二條ノ精神ニ非サルヘシ若シ日本側ニテ飽迄本件ヲ共同委員會ニ持出サルルトキハ自分トシテハ客年ノ決定ヲ翻ササルヲ得サルニ至ルヤモ知レスト云ヒ尙佛、伊側ノ意嚮ハ知ラサルモ米國總領事ハ大體「ブ」ト同様ノ意嚮ナル旨語り居タリ

惟フニ英國側トシテハ共同委員會ニテ客年同様ノ決定ヲナセハ支那側ニ於テ英吉利ヲ目標ニ騷立ツヘク然リトテ決定ヲ翻スコトハ日本ノ不快ヲ買フコトナルヲ以テ斯ル板挾ミノ破目ニ陥ルコトヲ避ケンカ爲極力共同委員會

ノ開催ヲ回避セントスル腹カト察セラル
支へ轉報シ北平、南京へ轉電セリ

昭和8年3月(13)日 在上海石射総領事より
内田外務大臣宛(電報)

中国軍の上海停戦協定区域内通過事件に関する我
が方抗議文に対しての中国側回答振りについて

上海 本省 3月13日後着

第九九號

往電第八二號ニ關シ

我方抗議ニ對スル十三日俞委員ノ命ニ依ル市政府專員王
超俊^{震孝}來訪「本件軍隊ノ通過ハ停戦協定ニハ關係ナク同協定
第二條及附屬書第一ニ關スル支那側解釋ハ客年六月十三日
共同委員會席上並ニ同月二十日附同委員會議長宛書翰中ニ
鮮明セラレ居リ今モ尙同様ノ見解ヲ有シ居ル」旨ノ回答ヲ
手交スルト共ニ支那側トシテハ表面上ハ右様回答セサルヲ
得サル次第ナルカ事實上ハ今後必ス事前ニ御通知スル様致
スヘシト内話セリ

(別 添)

JAPANESE CONSULATE-GENERAL,

Shanghai, March 8th, 1933.

Sir,

I have the honour to call your attention to the fact
that on the 7th ultimo, a large number of Chinese troops
passed through the Markham Road Junction which is
situated in the area defined in Annex I of the Agreement
signed on May 5th, 1932.

In view of the provisions of the Agreement and the
unanimous decision reached on the 13th June, 1932, by
the neutral members of the Joint Commission, I am
constrained to lodge a strong protest against the afore-
said movement of the Chinese troops and to request you
to see to it that no such movement of Chinese troops
through the area in question will take place in future.

I beg to add that I am sending a copy of this letter
to the Chairman of the Joint Commission.

I have the honour to be,

右ニ付各國側ノ態度ヲ見極メタル上貴電第二九號末段ノ御
趣旨ニ依リ再應支那側ニ申入ルル積リナリ
支へ轉報セリ

南京、北平へ轉電セリ

昭和8年3月14日 在上海石射総領事より
内田外務大臣宛

中国軍の上海停戦協定区域内通過事件に関する
我が方抗議文および中国側回答文轉達について

機密第二八六號 (接受日不明)

昭和八年三月十四日

在上海

總領事 石射 猪太郎

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

支那軍ノ「マークム」路交叉點通過ニ關スル件

本件ニ關スル我方抗議文及之ニ對スル支那側回答文ノ要旨
ハ既電ノ通りナル處右寫各一部別添送付ス
本信寫送付先 北平 南京 在華公使

Sir,

Your obedient servant,

Signed: Itaro Ishii,

Japanese Delegate,

Joint Commission.

O. K. Yu, Esquire,

Chinese Delegate,

Joint Commission,

Shanghai.

THE CITY GOVERNMENT OF GREATER SHANGHAI,

March 11th, 1933.

Sir,

In reply to your letter of March 8th, 1933, concern-
ing the passage of Chinese troops through the Markham
Road junction for Hangchow on the 7th ultimo, I have
the honour to state that such troop movement does not
come within the scope of the Agreement signed on May
5th, 1932.

Our interpretation of Article II and Annex I of the said Agreement was fully declared at the meeting of the Joint Commission on June 13th, 1932 and in my letter to the Chairman of the Joint Commission under date of June 20th, 1932. We hold the same view regarding the troop movement in question.

I have the honour to be,

Sir,

Your obedient servant,

Signed: O. K. Yui

Chinese Civil Delegate to
the Joint Commission.

Itaro Ishii, Esq.,

Japanese Delegate,

Joint Commission,

Shanghai.

昭和8年3月15日

在上海石射総領事より
内田外務大臣宛(電報)

中国軍の上海停戦協定区域内通過事件に對する
米仏兩國總領事の見解について

上海

発

本省 3月15日後着

第一〇三號

本官發北平宛電報

第一號

本官發大臣宛電報第八二號ニ關シ

十四日領事團月例會議後米國總領事ト會談シタルニ同總領事トシテハ平靜狀態回復セル今日支那軍ノ單ナル通過ハ協定違反ト見ルヘキヤ議論ノ餘地アルヘシト思フモ早速電報ニテ公使ニ請訓スヘシト述ヘタルルカ十五日佛國總領事ヲ往訪意見ヲ交換シタル處同總領事ハ自分限りノ意見トシテハ昨年ノ中立委員決定ハ現在モ尙有效ト認ムルヲ以テ支那軍隊通過ニ際シテハ必ス事前共同委員會ノ了解ヲ取付クヘキモノナリト解シ居ルモ兎ニ角電報ニテ公使ノ意見ヲ尋ネタル上御返事スヘシト述ヘタリ

就テハ貴官ヨリ米、佛公使ニ御折衝ノ上屢次本省來電ノ趣旨ニ基キ我方ノ主張ヲ了解セシムル様御措置相煩度シ

大臣、南京へ轉電シ支へ轉報セリ

昭和8年4月(4)日

在上海石射総領事より
内田外務大臣宛(電報)

中国軍の上海停戦協定区域内通過事件に關し共同委員會への解決付託を断念し無通告通過には
実力措置の用意ある旨中国側に通告方意見具申

上海 發

本省 4月4日後着

第一二七號

往電第八二號ニ關シ

英國總領事「ブレナン」客月末賜暇歸朝前此ト面會隔意無キ意見ノ交換ヲ爲セルカ其ノ際「ブ」ハ既電ノ趣旨ヲ繰返スト共ニ本件ハ日支間ニ於テ解決サレンコトヲ望ム若シ日本側ニ於テ本件ヲ共同委員會ニ持出シ其ノ決定ヲ求メラルルニ於テハ英國側トシテハ甚タ困惑スヘク寧ロ共同委員會ヲ廢止スルニ如カスト迄考フル次第ニテ若シ共同委員會ニ掛クレハ英國側トシテハ軍事的意味ニ於テ上海ニ「ノウマルシー」回復セラレタリト思考スル今日日本軍ニ對シテ戰

意無キ支那軍隊ノ通過ヲ阻止スル爲ニ第二條ヲ利用スヘキモノニアラストノ意見ヲ述ヘサルヲ得サルヤモ知レスト述ヘタルカ次テ其ノ後米國總領事ヨリ公使ニ請訓セル結果同總領事ノ彙ニ述ヘタル意見ヲ「コンファーム」シ來レリトテ支那軍ノ單ナル通過ハ「ノウマルシー」回復セリト認メラルル今日協定違反トシテ攻ムルハ妥當ニアラス兎モ角本件ハ日本側ニテ共同委員會ニ持出ササル様セラレタシトノ趣旨同訓アリタル旨又佛國側ハ總領事ヨリ公使へ請訓ノ結果支那軍ノ通過ハ明文ニ記載無キコトニモアリ今日ニ於テハ支那側ニ於テ事前通知ヲ約束スル以上口約タルト否トヲ問ハス夫ニテ満足スヘキモノト考フル旨話アリ此等ニ對シテハ夫々我方ノ主張ヲ繰返シタルモ説得シ難ク(英、米、佛ハ北平ニ於テ相談シタルモノト思ハル)伊國側ハ目下本國政府ニ請訓中ナルカ如キモ右三國ニ倣フモノト思ハルヲ以テ頼ミニナラス共同委員會ハ断念スル外無シト思考セララル依テ此ノ際往電第八二號支那側回答ニ對スル反駁トシテ貴電第二九號末段ノ趣旨ヲ愈委員ニ申送り同時ニ事前無通告軍隊ヲ通過セシムルコトアラハ我方ハ必要ト認ムル場合適當ナル措置ヲ採ル用意アル旨ヲ通告シテ事ヲ了シタシ右

ニ御承認ヲ請フ

實際上ハ其ノ後二同支那軍通過シタルモ支那側ハ其ノ都度
事前通知ヲ爲シ來レリ
支ヘ轉報シ南京、北平ヘ轉電セリ

677 昭和8年4月8日

内田外務大臣より
在上海石射総領事宛(電報)

中国軍の上海停戦協定区域内通過事件に関し共同
委員会開催は断念するが実力措置の警告発出は中
国側事前通告履行の結果如何とすべき旨訓令

本省 4月8日発

第六三號(至急、極秘)

貴電第一二七號ニ關シ

「我方トシテハ往電第二四號ノ通成ルヘク共同委員會ヲ利
用スルノ方針ナル處中立委員側ノ態度カ冒頭貴電ノ通ナ
ルニ於テハ此ノ際ハ委員會ノ開催ヲ求メサルコトトスヘ
シ

「一方支那側ニ對シテハ往電第二九號ノ方針ニ基キ同電末
段ノ通告ヲ發スヘキ次第ナル處我方從來ノ斷乎タル態度

貴電第六三號ニ關シ

支那委員ハ本件ニ關スル日支間意見ノ相違ニ拘ラス事實上
事前通告ヲ爲ス可キ旨ヲ本官ニ言明シ居リ其ノ後二同之ヲ
實行シ來レル事既報ノ通ナルヲ以テ暫ク先方ノ遣振ヲ見送
ル事モ一策ナル可シト存シ御訓令接受以來其ノ儘ト爲シ居
ル處最近第三艦隊長官トモ意見ヲ交換シタルニ艦隊側ニテ
ハ北方時局ノ進展次第ニテハ本問題モ圓滿解決ノ可能性ヲ
生スルヤモ知レサルニ付急ニ措置セサル方可ナル可シトノ
意見ニテ暫ク此ノ儘ニ差置ク事ニ一致シタルニ付右御承認
ヲ請フ

尙支那側委員ニ對シテハ本問題ヲ適當ナル時期ニ再ヒ持出
ス考ナルモ夫迄ハ事前通告ヲ怠ラヌ様セラレ度旨嚴重注意
シ置ク積リナリ

支ヘ轉報シ北平、南京ヘ轉電セリ

679 昭和8年11月26日

在南京日高総領事より
広田外務大臣宛(電報)

上海停戦協定区域内における中国軍通過予定に
関し陳儀中国軍政部政務次長に確認について

ニハ何等ノ變質ナキモ支那側カ口約ヲ重シ其後事前通

報ヲナシ來リ居レル趣ナルニ顧ミ右事實ニ立脚シ之ヲ確
認セシムル爲今一應何トカ日支間ニ交渉ヲ試ムルノ餘地
ナキニ非サルヤニ思考セラレ其ノ方途ニ關シテハ目下軍
部側ト共ニ折角考慮中ナリ就テハ委細ハ近ク歸滬スヘキ
岡崎書記官ヨリ御聽取ノ上更ニ一段ノ御努力相成度ク從
テ冒頭貴電末段ノ我方通告ハ其ノ際迄發送ヲ見合ハセラ
レタシ

北平ニ轉電セリ

支、南京ニ轉報アリタシ

678 昭和8年5月26日

在上海石射総領事より
内田外務大臣宛(電報)

中国軍の上海停戦協定区域内通過事件に関し
しばらく事態を静観することで派遣艦隊長官
と意見一致について

上海

発

本省 5月26日後着

第二二三號(極秘)

第六四〇號(極秘扱)

本官發上海宛電報

第一八號

往電第一七號ニ關シ

南京

発

本省 11月26日後着

廿六日午前陳次長ヲ往訪シ貴電第三四號ノ御趣旨ヲ申入レ
タル處陳ハ冒頭往電ノ事實ヲ述ヘ八十八師ノ軍隊ヲ派遣ス
ルニ決シ二十六、七、八ノ三日ニ亘リ停戦區域ヲ通過スヘ
ク右ノ次第ハ昨日上海市長ニ電報シタレハ本日王長春ヨリ
貴官ニ申出ツル筈ナリト言ヘルニ付之ヲ了承スルト共ニ爲
念我方ニ於テ協定ノ遵守ヲ重視シ居ルコトヲ強調シ置キタ
リ

尙陳ノ談ニ依レハ福建軍ニ對シ廣東側ハ防備整ヘルモ浙江
境ハ手薄ナルニ依リ用心ノ爲軍隊派遣ニ決シタルモノニシ
テ直ニ戦闘開始ヲ豫期シ居ラス又飛行機ニ依リ偵察ヲ行フ
コトアルヘキモ差當リ爆撃ヲ行フ意無ク海軍ハ福建沿岸ヲ
巡航シ軍需品ノ輸入等ヲ監視スヘキモ封鎖ノ舉ニ出テント
スルモノニ非スト説明セリ(陳ノ申出モアリ是等ノ點ハ極

秘ニ願度シ)

冒頭往電ノ通り轉電セリ
支ヘ轉報アリ度シ

680 昭和8年11月28日

在上海石射總領事より
広田外務大臣宛(電報)

今回の上海停戦協定区域内における中国軍通過
過に關し中国側の通告振りについて

上海 発

本省 11月28日後着

第四一三號

本官發南京宛電報

第三七號

貴電第二〇號ニ關シ

屢次ノ御配慮感謝ス大臣宛拙電第四一〇號^電王長春及俞鴻鈞
ヨリノ追加的通告ハ當方トシテハ尙満足セサルモ(時間ノ
點餘リニ漠然)支那側ノ誠意ニ鑑ミ今回ノ軍隊輸送ヲ此ノ
上問題トセサルコトトセリ(公文ヲ交換スル迄ハ我方ニテ
ハ事前通知アルモ輸送ヲ承認スルニ非ス之ヲ暫ク問題トセ

ストノ建前ヲトル次第ナルニ付陳儀ニ對シテモ誤解セサル
様御話ヲ請フ)

尙今回ノ輸送ニ付支那側ハ或ハ宴會ノ席上岩松武官ニ内話
スルカ如キ或ハ當方ヨリセツカレタル結果間際又ハ輸送開
始後ニ至リ澁々通告スルカ如キ次第ニテ支那側ノ通告振ハ
當方ニトリ甚タ不愉快ニシテ輸送ノ度毎ニ斯ノ如キ交渉ヲ
繰返スニ於テハ自然感情ノ纏レヲ來スコト明カナルニ付八
十八師ハ其ノ内必ス歸還スルコトナルヘク又其他ノ場合
ニモ輸送計畫セラルルコトアルヘキニ付今後ハ輸送計畫ノ
大要(例ヘハ時間ナラハ少クトモ何時前後位)ヲ進ンテ成ル
ヘク前廣ニ通告ヲ行ハルル様特ト陳儀等ニ御申入ヲ請フ
支ヘ轉報シ大臣、北平、廣東、福州、厦門、杭州、蘇州ヘ
轉電セリ

編注 「八十八師輸送兵力數ニ關スル電報」との海軍側書込

あり。

681 昭和8年11月28日

在上海石射總領事より
広田外務大臣宛(電報)

上海停戦協定区域内中国軍通過問題に關し公文
交換に應じる用意ありとの陳儀意向について

上海 発

本省 11月28日後着

第四一四號

本官發南京宛電報

第三八號

貴電第二〇號ニ關シ

二十八日午後王長春來訪シ陳儀ヨリ貴官ト面會ノ次第ヲ電
報シ來レル趣ニテ右貴電ト同様ノ趣旨ヲ通知シ來レリ依テ
拙電第三七號ノ趣旨ヲ陳儀及俞鴻鈞ニ能ク傳達方申入置キ
タリ尙右陳儀來電ニハ陳ハ若シ本官ニ於テ必要ト認メラル
ルナラハ公文交換ヲ爲スモ可ナリトノ意向ナル由ニ付此ノ
機會ニ本件ヲ纏ムル事ト致度就テハ本官貴地出張ノ上或ハ
近ク陳儀當地ヘ來ル事有ラハ當地ニテ親シク陳儀ニ我方ノ
意ノ存スル處ヲ説明シ話ヲ付クルコト便宜ナリト思考ス陳
儀ノ都合御聞合セヲ請フ

大臣、北平ヘ轉電シ支ヘ轉報セリ

682 昭和8年12月16日

在南京日高總領事より
広田外務大臣宛(電報)

上海停戦協定区域内中国軍通過に關する公文
交換につき近く上海において会谈に應じる旨

陳儀内話について

南京 発

本省 12月16日後着

第六八九號

本官發上海宛電報

第二四號

貴電第四二號ニ關シ

往電第二二號以後モ本官ヨリ度々陳儀及唐有壬ニ對シ公文
交換及貴官ト懇談ノ必要ヲ力説シ居ル處陳儀ハ將來無用ノ
紛糾ヲ避クル爲何等カノ取極ヲ爲ス必要ハ認メ居ル次第ナ
ルモ現時内政事項機微ノ際過般ノ日本陸軍軍人新疆飛行
問題ニ關シ監察院ニ於テ陳儀ニ對スル彈劾提起セラレ居ル
由(之ヲ實行スルヲ躊躇シ居ルヤニ認メラレタルカ十六日
同人ヲ往訪シタルニ陳ハ貴電憲兵駐在ノ理由及其ノ必要ヲ
種々説明シ本件ニ關シテハ今晚沈亞洲司長ヲ上海ニ出張セ

シメ唐次長(本日夜行ニテ赴滬ノ筈)ト共ニ本件解決方ニ付貴方ト折衝セシムル事トセルカ(沈ハ少數憲兵駐屯ノ必要ヲ充分説明シ貴方ノ了解ヲ求メ一旦憲兵ヲ撤退シタル上改メテ駐在セシムル事ト致度希望ヲ有スルカ如シ)通過問題其ノ他ニ付何等取極ノ必要ハ充分認め居ル故ニ近ク都合ヲ着ケ自分(陳)上海ニ出向キ貴官ニ御面會致度旨述ヘタルニ付本官ヨリ貴方ノ御意見ヲ傳ヘ双方意見ノ疏通カ第一ニ肝要ナル所以ヲ力説シ序ニ私見トシテ愈ノ態度カ無用ニ事件ヲ紛糾セシムル傾有ル事ヲ指摘シタルニ陳ハ之ヲ首肯シ萬事御面會ノ節懇談ス可シト言ヒタリ

委細ハ本官月曜日貴地出張ノ節御話申上ク可シ

支ヘ轉報アリタシ

大臣ヘ轉電セリ

683 昭和8年12月17日 在南京日高總領事より
広田外務大臣宛(電報)

上海停戦協定区域内に駐屯中の中国憲兵に対する我が方撤退要求に関し上海に赴き協議すべき旨唐有壬提議について

684 昭和8年12月30日 在上海石射總領事より
広田外務大臣宛(電報)

上海停戦協定区域内中国軍通過に関する公文交換につき交渉継続方意見具申

付記一 昭和九年一月四日発在上海石射總領事より広

田外務大臣宛電報第二号

中国側憲兵駐屯承認を交換条件としてゐるため我が陸軍側は右公文交換に反対との情報について

二 昭和九年一月九日発広田外務大臣より在上海

石射總領事宛電報第四号

右公文交換交渉継続方および同交渉における留意点につき訓令

三 昭和九年三月二十八日着在上海石射總領事より

り広田外務大臣宛電報第一六五号

右交換公文署名完了および同公文を極秘とした交渉事情について

四 昭和九年三月二十八日着在上海石射總領事より

り広田外務大臣宛電報第一六六号

南京 発
本省 12月17日着

第六九二號

本官發上海宛電報

第二五號

往電第二四號ニ關シ

十六日唐有壬ノ求ニ依リ往訪シタル處沈亞洲司長ト同席ニテ本官ニ對シ唯今接到シタル上海市政府ヨリノ電報ニ依レハ日本側ニ於テハ憲兵ノ急遽撤退方ヲ盛ニ迫リ居ラルル由ナルカ自分等兩人ハ今晚夜行ニテ赴滬指揮官ニ御面會ノ上撤退方ニ付協議申上ヘキニ付御了承相成度本官ヨリ右ノ趣至急通報方依頼シタルニ依リ之ヲ諾スルト共ニ停戦協定ニ關スル諸問題ノ處理ニハ双方ノ理解ト同情トカ基礎トナルヘキモノナルヲ以テ唐等ニ於テモ小節ニ拘泥セス誠意ヲ披瀝シテ懇談スルコトノ必要ナルヲ説示シ置キタリ

大臣ヘ轉電セリ

上海ヨリ支ヘ轉報アリタシ

中国側国内事情より公文嚴秘方意見具申

五 昭和九年三月二十七日付在上海石射總領事より

り広田外務大臣宛公信機密第三五六号

右交換公文および議事録写送付について

六 右交換公文および議事録仮訳文

上海 発

本省 12月30日後着

第九〇號(極秘)

貴電第二五三號ニ關シ

憲兵問題ハ兎モ角支那軍通過ニ關スル文書取交シニ對シテ迄今更ラ行惱ム事ハ從來ノ御訓令振ニ鑑ミ甚タ意外ナルカ我ニ於テ之ヲ澁ルコトトナルニ於テハ從來本官ヨリ支那側ヲ「プレス」シ來レルカ全然無意味トナリ先方ニ頗ル妙ナ印象ヲ與フヘキニ付是非本官ノ案ニテ取纏メ方御配慮ヲ請フ尙當地陸戰隊及陸軍武官ヨリハ先日夫々主務省ニ對シ卑見ト同趣旨ヲ打電シアリ御含迄

尙沈亞洲司長ハ本三日早朝來滬セル旨電話シ來リタルニ付南京宛拙電第四五號ノ趣旨ヲ返事シ置キタルカ支那側ヲ長ク引張り居ル事面白カラサルニ付何分ノ儀至急御訓令有ル

様御取運ヒヲ請フ
南京へ轉電シ支へ轉報セリ

(付記一)

上海 昭和9年1月4日後発
本省 昭和9年1月4日後着

第二號

客年往電第四九〇號ニ關シ

參謀本部ヨリ當地陸軍武官へノ來電ニ依レハ陸軍側ノ反對ハ憲兵ノ駐屯及之ヲ認ムルコトヲ交換公文ノ交換條件トスルコトニアル(カ)如キ處憲兵ハ駐屯ト便宜上稱シ居ルモ實ハ南京ヨリ警乗シ來リタル憲兵カ北停車場ニ於テ一兩日休息シツツ次ノ警乗當番ヲ待ツモノニシテ其ノ結果常ニ數十名ノ憲兵カ同停車場ノ特定ノ小屋内ニ起居シ居ル形トナルモノナリ又本件ハ支那側ヨリ交換條件トシ來リ居ルモノニ非ス當方ニ於テ之ヲ餌ニ利用シ居ル次第ナリ御承知ノ通り大体停戰協定其ノモノニ大ナル缺陷アリ之ヲ我方ノ主張通ニ維持セントスルニハ卑見ノ如キ手段モ已ムヲ得サルコトナリ爲念

ル態度ヲ持續スルコト肝要ナリ)

一、公文交換ハ日支文武官委員(即チ双方ニテ四人)ノ名ヲ以テスルヲ要ス

二、交換公文ノ内容ハ左記ノ趣旨トスルヲ要ス但シ辭句決定前改メテ請訓セラレ度

支那側公文「(一)停戰協定ニ關シ支那軍隊ガ京滬線又ハ滬杭線ニ依リ同協定第二條及同協定第一附屬書ニ掲記セラレタル地點以內ノ地域ヲ通過スルコトニ付事前ニ貴方ニ通知シ其ノ同意ヲ求ムベキヲ以テ貴方ニ於テ右通過ニ反對セラレザラムコトヲ望ム(二)同協定ニ關シ專ラ京滬間列車中ノ警備及取締ノ爲〇名ヲ越エザル憲兵ヲ同列車内ニテ乗務セシムルコト(貴電第二號)ノ如ク憲兵ガ交代ノ爲北停車場内ニ起居スルコトハ已ムヲ得ザルベキモ之ヲ交換公文中ニ記載スルハ面白カラズ此等細目ノ點ハ議事録ニ記載スルコト可然)ニ貴方ニ於テ反對セラレザラムコトヲ望ム」

日本側公文「(一)支那側公文ヲ「リピード」シタル後)一定部隊ノ右地域通過ノ度毎ニ貴方ヨリ我方ニ對シ事前ニ十分ノ餘裕ヲ以テ且該通過ガ必要已ムヲ得ザル事情ニ

尙當地武官ヨリ當地ノ事態ヲ説明シタル上本件ノ已ムヲ得サルヘキコトヲ參謀本部へ重ネテ打電スル筈ナリ御含迄支へ轉報シ、南京へ轉電セリ

(付記二)

本省 昭和9年1月9日發

第四號

客年貴電第四七七號ニ關シ

公文交換ノ件原則トシテ承認スルニ付貴地陸海軍ト連絡シツツ左記要綱ニ依リ善處セラレ度尙目下ノ事態ガ公文交換ノ目的ヲ達スル適當ノ機會ナルニハ相違ナキモ我方ニ於テ功ヲ急グノ餘リ公文ノ内容ガ却テ不利ノ結果トナルガ如キコトトナリテハ甚ダ面白カラザルニ付其ノ邊充分御留意相成度將又萬一此ノ機會ヲ逸スルコトアリトスルモ我方ニ於テ引續キ停戰協定ノ尊重ニ付嚴格ナル態度ヲ堅持シ行ケバ支那側ハ其ノ必要上必ズヤ早晚我方ノ要求ニ應ジ來ルベシト存ス(最近支那側ガ公文交換ニ傾キ來リシハ憲兵駐在ノ必要ニ迫ラレタルコト與テ力アルモノト認メラルルニ付我方ニ於テハ公文交換ノ議纏ラザル限り憲兵問題ニ付強硬ナ

基クモノナルコトヲ明ナラシムベキ説明ヲ具シ通知セラ
ルルニ於テハ我方ハ調査ノ上同部隊ノ通過ガ停戰協定ノ
維持上差支ナキコトヲ確認シ得ル限り之ニ同意ヲ與フベ
シ(二)同上)我方ハ右憲兵ノ京滬間列車内乗務ガ停戰協定
ノ維持上差支ナキコトヲ確認シ得ル限り之ニ反對セサル
ベシ」

三、議事録ニ記載スベキ細目ニ付テハ成ル可ク廣キ範圍内ニ
於テ日本側兩委員ニ一任シ度キ考ナルモ其ノ内容ニ關シ
テハ一應請訓セラレ度

四、公文交換ニ付テハ各國共同委員ニ對シ事後通知(承認ニ
非ズ)スルコトト致度

本電陸海軍ト打合ズミ
南京、北平へ轉電セリ
支へ轉報アリ度

編 注

本文書は海軍用箋にタイプ印刷の電信写であり、発
電日は編者が補なった。

(付記三)

上海 発
本省 昭和9年3月28日前着

第一六五號(至急、極祕)
貴電第八一號ニ關シ

本二十七日午後公文交換及議事録署名ヲ了シタルカ支那側ハ薄氷ヲ踏ム思ヲ以テ本件取極ニ應シ我方委員モ支那側カ本取極ヲ守ル限リ極祕ト爲シ置クヘシトノ諒解ニテ支那側ヲ誘ヒタル次第ニシテ先方ハ絶對極祕ヲ希望シ居ルニ付右ニ御了承アリタシ尙第三國共同委員ヘノ通知モ右支那側ノ希望ニ基キ極祕ノ御含ヲ以テ爲ス筈ナリ不取敢

(付記四)

上海 発
本省 昭和9年3月28日後着

第一六六號

貴電第八一號ニ關シテハ不取敢拙電第一六五號ヲ以テ御返事シ置キタルカ若シ今日ノ情勢ノ下ニ之ヲ公表スル時ハ軍政部長及外交部要人等及支那側委員ノ地位ヲ危殆ナラシメ一大波紋ヲ不必要ニ惹起スルコト必定ナルニ付本件取極ア

リタル事實サヘモ嚴秘ニ附シ置カレ度ク陸海軍方面ヘモ充分其ノ趣旨徹底方御取計ヲ請フ實際上ヨリ言フモ之ヲ嚴秘ニ附シ置ク一方若シ支那側カ協定及本取極ヲ守ラサル時ハ已ムヲ得ス公表スヘシト爲シテ支那側ヲ脅シ協定遵守ニ小心翼々タラシムル方差當リ效果的ナリト思考ス
尙交換公文及議事録ノ寫ハ今二十八日ノ聯絡船ニテ郵送セラルカ其ノ「テキスト」ハ別電第一六七號^(密)ニテ御承知ヲ請フ北平、南京ニ轉電シ支ニ轉報セリ

(付記五)
機密第三五六號^(密)

(接受日不明)

昭和九年三月二十七日
在上海總領事 石射 猪太郎

外務大臣 廣田 弘毅殿

停戰協定交換公文及議事録寫送付ノ件

本件公文交換及議事録ノ署名ヲ了シタル次第ハ曩ニ電報シタリ^(ル)通りナル處右支那側委員ヨリノ公文寫(別添甲號)我方委員ヨリノ公文寫(別添乙號)、支那側ニ保有ノ議事録寫別添丙號(我方ニ保有ノ議事録寫(別添丁號)^(密)各一部茲ニ送付

ス

(別添甲号)

March 27th, 1934.

Messrs. I. Ishii and G. Kogure,
Japanese Members,
Joint Commission,
Shanghai.

Dear Sirs:

With reference to the Agreement for the Cessation of Hostilities around Shanghai signed on May 5th, 1932 have the honour to state that we hope that you will raise no objection to the passage of Chinese troops by railway through the areas referred to and indicated in Article II of the said Agreement and Annex I thereto, it being understood that notice of such movement will be given you beforehand to obtain your consent thereto.

We further have the honour to state that we hope

that you will not object to the functioning of Chinese^(s.s.) gendarmes, not exceeding 30 in number, on the trains on the Nanking-Shanghai Railway within the said areas, for the sole purpose of protecting passengers and maintaining order.

We have the honour to be,
Dear Sirs,

Your obedient servants,
(Signed) Kan Hai Lan.

O. K. Yui.

Chinese Members of the Joint Commission.

(別添乙号)

March 27th, 1934.

Messrs. O. K. Yui and Kan Hai Lan.
Chinese Members,
Joint Commission,
Shanghai.

Dear Sirs,

We have the honour to acknowledge the receipt of your note of today's date, the first paragraph of which reads, "With reference to the Agreement for the Cessation of Hostilities around Shanghai signed on May 5th, 1932, we have the honour to state that we hope that you will raise no objection to the passage of Chinese troops by railway through the areas referred to and indicated in Article II of the said Agreement and Annex I thereto, it being understood that notice of such movement will be given you beforehand to obtain your consent thereto," and to state that if the notification of such movement of Chinese troops is made each time sufficiently long beforehand, furnishing us with explanation for the absolute necessity for such movement, we will consent to it upon being convinced that such movement of Chinese troops will not interfere with the maintenance of the said Agreement.

With regard to the second paragraph of your note,

(岡繁匠中)

Minutes of Conversations.

In connection with the notes exchanged on March 27th, 1934 between the Chinese and Japanese Members of the Joint Commission created by the Agreement for the Cessation of Hostilities around Shanghai, the following have been understood between the above two parties in the course of conversations on the said exchange of notes:

1. The movement of Chinese troops through the areas in question is to be made only by way of the Nanking-Shanghai and the Shanghai-Hangchow Railway, without stop-over in the areas.

2. The notification of such movement is to be made by the Chinese Members, giving the destination, number (兵數), name, arm of service (兵種) of the passing troops, and the name of division or army to which they belong, as well as the time of their passage through Markham Road Junction.

which reads, "We further have the honour to state that we hope that you will not object to the functioning of Chinese gendarmes, not exceeding 30 in number, on the trains on the Nanking-Shanghai Railway within the said areas, for the sole purpose of protecting passengers and maintaining order," we have the honour to state that we will not raise any objection to the functioning for the said purpose of Chinese gendarmes, not exceeding 30 in number, on the trains on the Nanking-Shanghai Railway within the said areas, upon being convinced that such functioning will not interfere with the maintenance of the said Agreement.

We have the honour to be,

Dear Sirs,

Your obedient servants,

(Signed) I. Ishii.

G. Kogure.

Japanese Members of the Joint Commission.

3. Part of Chinese gendarmes in question may temporarily wait only in a fixed place in the compound of Shanghai North Station for their turn for duty on the Nanking-Shanghai Railway. The number of the gendarmes in question, namely 30, includes the waiting gendarmes in the said place and those on duty on the trains of the said Railway.

4. The regimental name and the waiting place of the said gendarmes are to be notified by the Chinese Members and each time when relief is made by gendarmes from a different regiment or when the waiting place is changed, notification of their regimental name or the new waiting place is to be made immediately by the Chinese Members.

5. The notifications referred to in the preceding paragraphs are to be made in writing. In case of emergency, verbal notification may be made, which, however, shall be confirmed in writing without delay.

6. The Japanese Members may detail any time their

men in charge to ascertain on the spot the actual state of the matters agreed upon herein and in the notes exchanged.

Made at Shanghai in duplicate on March 27th, 1934, a copy being retained by each party.

(Signed) Kan Hai Lan.

O. K. Yui.

Chinese Members of the Joint Commission.

(Signed) I. Ishii

G. Kogure.

Japanese Members of the Joint Commission.

編注 本文書は公信番号が記されておらず、編者が補った。

(付記六)

支那側委員來翰假譯文

以書翰啓上致候陳者昭和七年五月五日署名セラレタル上海停戰協定ニ關シ本委員等ハ中國軍隊カ鐵道ニ依リ前記協定第二條及同協定第一附屬書ニ掲記セラレタル地域ヲ通過ス

ルコトニ對シテハ斯カル移動ニ對スル貴委員等ノ同意ヲ求ムル爲豫メ貴委員等ニ對シ通告ヲ爲スヘキコトノ了解ノ下ニ貴委員等ニ於テ何等異議ヲ申立テラレサルヘキコトヲ希望スルモノナルコトヲ陳フルノ光榮ヲ有シ候

更ニ本委員等ハ專ラ乘客ノ保護及秩序維持ノ爲其ノ數三十名ヲ超エサル中國憲兵カ前記地域内ニ於テ京滬線列車ニ乗務スルコトニ對シ貴委員等ニ於テ反對セラレサルヘキコトヲ希望スルモノナルコトヲ陳フルノ光榮ヲ有シ候

此段照會得貴意候 敬具

民國二十三年三月二十七日

共同委員會中國委員

甘海瀾

俞鴻鈞

共同委員會日本委員

石射猪太郎殿

小暮 軍治殿

日本側委員復翰假譯文

以書翰啓上致候陳者本日附貴委員等公文ヲ以テ御照會ノ趣

領悉致候右公文第一項「(中國側公文第一項反復)」ニ付テハ

本委員等ハ若シ斯カル中國軍隊ノ移動ニ關スル通告ニシテ其ノ都度充分ノ餘裕ヲ以テ爲サレ且斯カル移動カ絕對ニ必要ナルコトノ説明ヲ具スルモノナルニ於テハ斯カル中國軍隊ノ移動カ當該協定ノ維持上差支ナキコトヲ我方ニ於テ確認シ得ル限り之ニ同意ヲ與フヘキコトヲ陳フルノ光榮ヲ有シ候

貴委員等公文第二項「(中國側公文第二項反復)」ニ付テハ本委員等ハ斯カル目的ノ爲其ノ數三十名ヲ超エサル中國憲兵カ該地域内ニ於テ京滬線列車ニ乗務スルコトカ當該協定ノ維持上差支ナキコトヲ我方ニ於テ確認シ得ル限り之ニ同意ヲ與フルモノナルコトヲ陳フルノ光榮ヲ有シ候
此段回答得貴意候 敬具

昭和九年三月二十七日

共同委員會日本委員

石射猪太郎

小暮 軍治

共同委員會中國委員

俞鴻鈞殿

甘海瀾殿

議事錄假譯文

上海停戰協定ニ依リ設置セラレタル共同委員會日支委員間ニ昭和九年三月二十七日ヲ以テ交換セラレタル公文ニ關聯シ右公文交換ニ關スル會談中ニ於テ左記了解兩國委員間ニ成立セリ

一、中國軍隊ノ當該地域ヲ通過スル移動ハ京滬及滬杭線ニ依リテノミ行ハルヘク且該通過ニ當リ當該地域内ニ止マルコトナキモノトス

二、右移動ニ關シ中國委員ハ通過部隊ノ目的地、兵數、名稱、兵種及該部隊ノ所屬スル帥又ハ軍ノ名稱並該部隊カ「マーカーカム、ロード」交叉點ヲ通過スヘキ時刻ヲ具シテ通知ヲナスモノトス

三、當該中國憲兵ノ一部ハ京滬線乗務交替ノ必要上一時的ニ上海北停車場構内ノ一確定地點ニ於テノミ自己ノ順番ヲ待ツコトヲ得、當該憲兵ノ數即チ三十名ハ上記地點ニ於テ待番スル憲兵及京滬線列車ニ乗務中ノ憲兵ヲ含ムモノトス

四、中國委員ハ右憲兵ノ所屬團名及待番地點ヲ通知シ且他團ヨリ交替憲兵ヲ派遣スル場合又ハ待番地點カ變更セラルル場合ニハ其ノ都度直ニ其ノ團名又ハ新待番地點ヲ通知スルモノトス

五、上記各項ニ掲記セラレタル通知ハ書面ヲ以テ爲スコトヲ要ス。緊急止ムヲ得サル場合ニハ口頭ヲ以テ爲スヲ妨ケサルモ遲滞ナク書面ヲ以テ之ヲ確認スヘキモノトス

六、日本委員ハ本議事録及交換公文中ニ協定セラレタル事項ノ實情ヲ實地ニ付確ムル爲何時ナリトモ派員スルコトヲ得

一九三四年三月二十七日上海ニ於テ二通作ル
共同委員會日本委員

石射猪太郎
小暮 軍治

共同委員會中國委員

甘 海 瀾
俞 鴻 鈞

2 中国による渤海沿岸密輸取締問題

685 昭和8年4月11日 在青島坂根總領事より
内田外務大臣宛

百トン未満の船舶による満州諸港および大連
との貿易を禁止する旨の海関告示について

普通第一六五號 (4月19日接受)

昭和八年四月十一日

在青島

總領事 坂根 準三(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

百噸未満汽船ノ滿支貿易禁止ノ件

本件ニ關シ當地稅關ハ上海同様四月八日附ヲ以テ別添寫ノ
通り告示セリ

件 膠海關告示第三九八號

登簿噸數一百噸ニ達セサル汽船及モーター船ノ中國及外國
間ノ直接貿易ニ從事スルコトノ禁止ハ中華民國二十年一月
十七日告示第二百六十四號及ヒ同年二月十八日告示第二百

六十七號ニテ公告セル所ナリ

茲ニ密輸入防止ノ爲滿洲ニ中國海關カ再開セラルルニ至ル
マテ登簿噸數一百噸ニ達セサル汽船及モーター船ノ滿洲諸
港及大連ト中國間ノ直接貿易ニ從事スルコトヲ禁ス
右政府ノ訓令ニヨリ告示ス

監督 袁 思 彥

暫行代理稅務司副稅務司 赤谷 由助

中華民國二十二年四月八日

686 昭和8年6月15日 在青島坂根總領事より
内田外務大臣宛(電報)

密輸防止のため武装監視船運航を青島海關計

画について

青 島 6月15日後発
本 省 6月15日後着

第八四號

支那關稅ノ急激ナル引上ニ依リ主トシテ關東州方面ヨリス
ル砂糖、綿布等ノ密輸入計畫カ從テ増加ス可キハ明瞭ニテ
既ニ其ノ兆アルニ對シ當地海關ニテモ武装監視船ヲ設ケン